

Library

CONTENTS

巻頭言：「鳥取大学附属図書館ビジョン 2021 の策定にあたって」	矢部 敏昭	1
私の選んだこの一冊 『現代暗号入門：いかにして秘密は守られるのか』 神永正博著	木本 雅也	2
Asia OA Meeting 2017 参加報告	中谷 昇	3
「レポートの書き方講習会」学長表彰を受賞		5
中央図書館、医学図書館に入退館システムが導入されました		6
本学教員寄贈図書（平成 28 年度～29 年度分）		7
トピックス 全国大学ビブリオバトル鳥取県大会・全国大会		8
全国高等学校ビブリオバトル 2017 鳥取県大会を初開催		9
高校生ヘライティング講習会（米子東、米子北斗）		10
読書ラリー2017 表彰式		11

鳥取大学附属図書館ビジョン 2021 の策定にあたって

矢部 敏昭

附属図書館ビジョン 2021 を紹介する前に、昨年度における喜ばしい出来事を 2 件紹介したい。いずれも本学附属図書館員の学生と教員に対する熱い思いが行動へと導いたものとする。

その 1 件目は、学生を対象とした「レポートの書き方」講習会の開催である。教員と協力して 13 回に渡って 4 段階の講習 (Step1 ; 基礎, Step2; 文章の構成や問いの立て方, Step3; パラグラフや語彙力, Step4; 推敲) をきめ細かく実施した点である。参加者数は昨年度の約 3 倍(156 名から 446 名へ)になり、本年 1 月 4 日の仕事始め式において学長賞を受賞した。

その 2 件目は、鳥取大学研究成果リポジトリである。他部局との連携により研究推進部開催の説明会で 4 回のリポジトリの説明を行った。また、広報冊子を作成し全教員へ配布することによりリポジトリの認知度が高まり、昨年度の約 15 倍(40 件から約 600 件へ)の依頼件数となった点である。積極的に協力をいただいた部局やセンターに対して厚くお礼を申し上げたい。

さて、表題の通り、鳥取大学附属図書館ビ



ジョン 2021 は、大学図書館としての果たすべき役割と機能を踏まえ、本学の将来構想並びにそれに係るアクションプランの中で、重要な学術情報基盤としての図書館の戦略的な位置づけを明確にしたものである。

まず、本学における学生の学習に関しては、学生自らが主体的に学ぶ学習の重要性を高め、かつ複数の学生が集って学ぶ“動の空間”と、従来から求められる“静の空間”をバランスよく確保し、学習支援はこれらの要請に積極的に応えるものである。他方、教員の高等教育及び学術研究活動を支える学術情報基盤の重要性を再確認し、教育及び研究にとって不可欠な中核を成すものである。そして、地域に開かれた大学図書館として県民との知の共有を図り、また、県内すべての図書館との連携及び協力を図ることで、地域のニーズに応え得る学術関連情報等を迅速に提供するものである。

このビジョン 2021 は、第 3 期中期目標の最終年度(2021 年)を目途として策定し、具体的には、以下大きく 4 つの柱で構成したものである。

第一の柱は教育支援であり、教員・学生と

の協働のもとに施設・利用支援等、学生の能動的学修を支援するための学修環境を整備すること。第二の柱は研究支援であり、研究を推進するための電子的リソースを始めとする研究情報を安定的に提供するとともに、学内で創成される教育研究成果の発信と保存のポータル機能を担うこと。第三の柱は社会貢献であり、地域及び全国の公共図書館及び大学図書館、その他の組織との積極的な連携協力を行い、社会に貢献すること。最後の第四の柱は学術情報資源の整備と人材育成であり、教育・研究・社会連携に必要な学術情報資源を収集・整理・保存・提供し、その利用促進に努めるとともにそれらを担う人材を育成することである。

大学図書館は大学における知の拠点と言われて久しいが、それはただ単に知の貯蔵庫であってはならない。私たちが求める「知」

は、未知の状況において具体的な行為を促すものであり、「知」の獲得が活動的・構造的に、かつ対話的にされるならば、“真なる知”の創成・共有は人間の視野の外にある物語と言えるかも知れない。なぜなら、単なる積み上げや修正の範疇では“真なる知”は生まれにくいからである。

知の創成及び知の共有が大学図書館に求められる今、将来を俯瞰しよりよく事を為す未知の行為が従来の範疇を超え得るならば、私たち図書館員は上述した物語を展開し続けるものである。

(やべ としあき :

副学長 ((附属図書館長、IT担当))、
地域学部教授)

私の選んだこの一冊

神永正博(著)『現代暗号入門:いかにして秘密は守られるのか』(講談社)

木本 雅也

暗号…そう聞くと難しく捉えられるかもしれない。この本では、難しいながらも分かり易く、例えも多用して解説されてはいるが、情報系の知識と数学の知識を必要とする為、すべてを理解するのはかなり敷居が高いかもしれない。ただ、どちらか一方の知識があれば、自ずと他方に興味が湧いてくる内容でもあるし、必ずしも理解が及ばなくても暗号の歴史、特に破られていく歴史はおもしろく映る。近年話題の暗号通貨についても少しばかり触れられており、暗号について学びたい人以外にもお勧めしたい一冊だ。

スマートフォンをはじめとした、1人1台以上情報機器を所有する現在の日常生活におい

て、個人が暗号にお世話になっている場面はかなり多い。その中でも、いちばん実感できるのはスマートフォンでのWi-Fi接続だろうか？大抵のWi-Fiネットワークは、パスワードで保護されている。ものによってはID等の情報も必要となる。接続先のWi-Fiのネットワーク名(SSID)に南京錠のマークが付いている、あるいは錠が外れているようなアイコンを見たことがあるはずだ。無線接続の電波は傍受できるので、パスワード等による認証が無い場合、通信内容が丸見えとなるケースがある。かといってパスワード保護されていれば安全かというところでもない。公共機関や店舗等がサービスとして提供しているWi-Fiネットワークと接続の

為のパスワードは、利用者全体で共通のものであり、悪用すれば他の利用者の通信内容を覗くことができるケースもある(皆が合鍵をもっていると思えばいい)。

話を戻そう。この本には、パスワードについて第 2 章の「ハッシュ関数」に含めて解説している。著者にお叱りを受けるかもしれないが、個人的には一般の人にもパスワードの話の書かれた第 2 章だけでも読んでいただきたい。だけと言いつつも、その前段となる第 1 章「共通鍵暗号」は読む必要がある。そして、第 4 章の暗号通貨の話もお勧めだ。

第 3 章以降は、冒頭にも書いたように敷居が高いように思われる。全体的に文章や数式が多いが、効果的に図が多用されており、例えと合わせて理解の助けになる。高等学校・大学の数学や情報を学んだ人でないと途中でくじけるかもしれない。が、「頭脳で勝負する野蛮人のゲームを楽しんでいただけたら幸いである」とまえがきの中の一文中にある読み応えのある内容であることは間違いない。できれば日

を空けずにじっくり一日掛けて一気に読んでいただきたい一冊である。

(きもと まさや：総合メディア基盤センター 准教授 附属図書館委員)



ご紹介いただいた本は図書館に所蔵しています。
配架場所：中央図書館 新書・文庫コーナー
請求記号：081：BB：B2035

Asia OA Meeting 2017 参加報告

中谷 昇

2017年12月4日から6日にかけて、ネパールの首都カトマンズにおいて開催された、Asia OA Meeting 2017 “Moving to higher ground - from open access to open science in Asia” に参加しました。これは、オープンアクセスリポジトリ連合 (COAR) の主催する国際会議で、オープンアクセス (OA) ・オープンサイエンス (OS) の国際動向およびアジア各国の活動に係る情報共有を図ると同時に、開催国

であるネパールの OA ・ OS 活動を発展させる一助となることを目的としたものです。私は、日本国内の OA ・ OS 活動を推進するオープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) の作業部会にも所属していることから、会議に出席して各国の報告を拝聴するとともに、日本の機関リポジトリ担当者の活動についての報告も行いました。



報告の中で特に印象深いのは、シンガポールの南洋理工大学の事例です。南洋理工大学では、学术论文の OA 化だけでなく、論文の基となった研究データについても保存・公開に関する方針を施行しています。会議では、これに対応して実装された研究データ専用のリポジトリ “DR-NTU (Data)” とその運用について報告がなされました。報告では、大学図書館員が研究者と相互にコミュニケーションをとりながら、より良いデータ公開の形を模索していると語られ、レベルの高い支援体制を窺い知ることができました。

また韓国からは、韓国科学技術情報研究院 (KISTI) が立ち上げを目指す国家規模のリポジトリ “Korea Open Access Repository” について触れられ、韓国国内の OA コンテンツを収集するのはもちろんのこと、海外のリポジトリとも連携することにより、Korea Open Access Repository という窓口ひとつで、国内のユーザーが世界中の OA コンテンツにアクセスできることを目指していると報告されました。

このほか、主催した COAR からは、次世代のリポジトリの構築を目指すプロジェクト “COAR Next Generation Repositories” について説明がありました。

次世代のリポジトリでは、ただ論文やデータを登録・公開するだけでなく、SNS のような研究者相互のやり取りができたり、査読や研究評価のシステムを備えるなど、国際的なネットワークを基盤とした付加価値型サービスの提供を目指すとされました。

国際会議に参加したのは初めてでしたが、平時の業務にあたっているだけでは分からない、各国の最新動向や先進的な取り組みに触れることができ、リポジトリというものをより広い視野で捉えられるようになりました。本学および国内の OA・OS 推進においても学ぶべき点は多くあり、それらをどう取り入れるべきか思案する一方で、発表のあったそれぞれがどのような発展を遂げていくか、今後も注視していきたいと感じました。



〈参考〉

中谷昇. “COAR Asia Meeting 2017<報告>”. カレントアウェアネス-E. 2018, no. 340, E1988.

<http://current.ndl.go.jp/e1988>

(なかたに のぼる: 研究推進部 図書館情報課)

「レポートの書き方講習会」学長表彰を受賞

附属図書館で実施している「レポートの書き方講習会」が平成 29 年度の鳥取大学学長表彰を受賞し、1 月 4 日の仕事始め式において授賞式が行われました。功績名は『レポートの書き方講習会』の拡大における学生のライティングスキル向上支援」です。

この「レポートの書き方講習会」は、図書館員がレポートへの参考文献引用の方法などを説明する講習会として平成 25 年より始めたものですが、よりアカデミックな視点からの学生のライティング支援に拡大させることを目的として、教員との連携のもと、平成 29 年度からライティングのレベル別に Step1～4 までの講習会を開講したものです。これにより、平成 29 年度は前年度の約 3 倍である 446 名の方に受講していただきました。

高等教育におけるアカデミックライティング支援の重要性が高まる中、教員連携によって学術的視点を取り入れることで図書館がこれまで培ってきた情報リテラシー講習会の充実と拡大を図り、本学で学生のライティング支援への一歩を踏み出したことが評価されたものと、館員一同嬉しく思っています。

この受賞を励みに、また、これまでいただいたご意見をもとに、これからもより進んだ講習会の企画・運営を進めていこうと考えておりますので、今後ともご支援くださいますようよろしくお願いいたします。

附属図書館 レポートの書き方講習会

<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/literacy/report.html>

step	テーマ	内容	回数/人数
1	一から学ぶ	レポートの中身/構成/書くべきこと/テーマの趣旨	6/323
2	よりよいレポート	レポートの目標/問の立て方/主張と根拠/文章の階層化/	4/98
3	伝わるレポート	内容の階層的構造化/語彙力/言い換え/レポートに必要な語彙	4/57
4	問題点をみつける	レポートのセルフチェック	3/9



中央図書館、医学図書館に入退館システムが導入されました。

中央図書館、医学図書館に入退館システムが導入されました。図書館の入館の際には下記カードが必要となります。

- 学生証 IC カード
- 職員証 IC カード
- 図書館利用証（図書館発行バーコード）
- 医学部発行 IC カード



※医学部カードは最初の利用時に、入館管理 PC に登録する必要があります。

登録できる日時は、平日の9時から17時(昼休み除く)となります。

※医学部カードでは図書の貸出はできません。

運用方法については下記のとおりです。

【入退館方法】

- ① 入館ゲートに、学生証 IC カード、職員証 IC カード、図書館利用証（バーコード）及び医学部カード（登録済）を入口ゲート読取口にかざす。
- ② 認証されれば、入口フラッパーゲートが開く。
- ③ 退館される時は、カードは不要です。BDS（無断持出装置）を通り、問題なければフラッパーが開きます。しかし、図書を無断持出した場合はこれまでと同様にブザーが鳴り、フラッパーは閉じたままになります。ブザーが鳴った場合は職員にご協力願います。

※利用者カードがない場合

○学内者で学生証等カードを忘れた場合は、ゲート前にあるチャイムを押すと、カウンター職員がゲートを開けます。カウンターにて「当日入館申込票」に氏名、学生証番号等の記載をお願いします。

○学外者で図書館利用者登録をされている方は図書館利用証（バーコード）で入館できます。図書館利用証を持っていない方は、ゲート前にあるチャイムを押し、カウンター職員が開けます。カウンターにて「当日入館申込票」に氏名、連絡先、利用目的等記載の上、身分証等で確認させていただきます。



中央図書館



医学図書館

本学教員寄贈図書(平成 28 年度～29 年度分)

本学教員の皆様より次の図書を寄贈していただきました。誠にありがとうございました。
本学教員著作寄贈図書コーナーに配架しておりますのでご利用ください。

(請求記号順)

書名/著者等	寄贈者名 (敬称略)	請求記号
オープンソース・ソフトウェアで学ぶ情報リテラシ : LibreOffice (Writer, Calc, Impress, Math) Mozilla Firefox Mozilla Thunderbird 情報倫理とモラル Linux OS 入門 (Cent OS 7.2) / 石田雅, 木本雅也共著	石田雅, 木本雅也	007.6:Opu
竹島は日本固有の島 : 「隠州視聴合紀」を読んで / 栗村哲象著	栗村哲象	291.73:Tak
乾燥地の自然と暮らし : モンゴル / 伊藤健彦, 大谷眞二著	大谷眞二	292.27:Kan
大学の片隅で : 私の教養教育実践 / 武田修志著	武田修志	377.049:Dai
大学における e ラーニング活用実践集 / 大学 e ラーニング協議会, 日本リメ ディアル教育学会監修	森川修	377.15:Dai
N 教授の生理学講義ノート : 人体のしくみとしかけをわかりやすく伝授 / 二 宮治明著	二宮治明	491.3:Nky
乾燥地の水をめぐる知識とノウハウ : 食料・農業・環境を守る水利用・水管理 学 / 北村義信著	北村義信	517:Kan
黄砂 : 健康・生活環境への影響と対策 / 黒崎泰典, 黒沢洋一, 篠田雅人, 山中典和編	鳥取大学黄 砂プロジェクト	519.3:Kos
果樹の栽培とせん定 / 高橋国昭編 ; 陣崎草子絵	高橋国昭	610.8:Sod:(99)
果樹高品質多収の樹形とせん定 : 光合成を高める枝づくり・葉づくり / 高 橋国昭著	高橋国昭	625.16:Kaj
オープンソース・ソフトウェアで学ぶ情報リテラシ : LibreOffice(Writer, Calc, Impress, Math) Mozilla Firefox Mozilla Thunderbird 情 報倫理とモラル Linux OS 入門 (Cent OS 7.3) / 石田雅, 木本雅也共著	石田雅, 木本 雅也	007.6:Opu
鳥取砂丘学 / 小玉芳敬, 永松大, 高田健一編	小玉芳敬, 永 松大, 高田健 一	454.64:Tot
決定版! グリーンインフラ / グリーンインフラ研究会, 三菱 UFJ リサーチ&コン サルティング, 日経コンストラクション編	日置佳之	518.85:Ket
インターローカル : つながる地域と海外 / 中朋美 [ほか] 編著	中朋美	377.6:Int
農村地域における諸活動と住民流動の評価と展望 : 高齢化・人口減少時代 のなかで / 能美誠著	能美誠	611.91:Nos
雑草は軽やかに進化する : 染色体・形態変化から読み解く雑草の多様性 / 藤島弘純著	藤島弘純	470:Zas

全国大学ビブリオバトル鳥取県大会・全国大会

11月11日、全国大学ビブリオバトル鳥取県大会を中央図書館1階ホールで行いました。これまでこの地区決戦は島根県と合同で実施していましたが、今年度は鳥取県大学図書館等協議会が主催し、初めて県大会として実施したものです。

公立鳥取環境大学、鳥取短期大学および鳥取大学から、それぞれの予選を勝ち抜いた3



名のバトラーによる決選でしたが、本の選び方や紹介の仕方など、3名3様の個性の光るバトルとなりました。うち、本学農学部3年の小倉裕平さんが紹介した「読んでいない本について堂々と語る方法」（ピエール・バイヤール著）が最も読みたい本「チャンプ本」となり、全国大会への出場権を獲得しました。

続く12月17日、よみうりホール（東京）で行われた全国大学ビブリオバトル首都決

戦では、各地の決戦を勝ち抜いた36名が出場し、チャンプ本を目指して一次予選を戦いました。本学の小倉さんは鳥取県大会と同じ本で出場。県大会では実は全部読んでいなかったことを明かして会場の笑いを誘い、今度は「しっかり読み込んだ」本について「堂々と語」っていました。惜しくもファイナリストには残らなかったものの、自然体のプレゼンが好感をよび、高い票数を獲得していました。



広島大学生が紹介し首都決戦のグランドチャンプ本となった「十八禁日記」（二宮敦人著）を始め、出場本はいずれも読みたいくなるものばかりでした。本好きの集まる年に一度の祭典を堪能し、欠航の合間を縫って鳥取へ帰ると、15cmばかり雪が積もっていました。

今回ビブリオバトルで紹介された本は、中央図書館に所蔵しています。



「本にだって雄と雌があります」(081:SCB:
お-92-1)

「国語、数学、理科、誘拐」(913.6:Aoy)

「読んでいない本について堂々と語る方法」
(081:CGB:ハ-46-1)



全国高等学校ビブリオバトル 2017 鳥取県大会を初開催

平成 29 年 12 月 17 日に、鳥取短期大学を会場として、「全国高等学校ビブリオバトル 2017 鳥取県大会」が開催されました。この大会は、全国高等学校ビブリオバトル鳥取県大会実行委員会が主催したもので、鳥取大学附属図書館も実行委員として参画しました。

鳥取県下で初めて、高校生のビブリオバトル全国大会である「全国高等学校ビブリオバトル 2017」の鳥取県予選として開催され、全県から集まった 9 校 14 名の高校生が、累計 79

名の参加者の前で、熱いバトルを繰り広げました。

そして見事、チャンプ本に選ばれたのは、米子工業高等専門学校の生徒さんの発表した『夏の庭：The Friend』でした。発表した生徒さんは、平成 30 年 1 月 29 日に東京で開催された全国大会へ出場しました。惜しくも入賞には至らなかったものの、鳥取県大会でも見せてくれた圧巻のトークは、多くの観客を魅了したことでしょう。



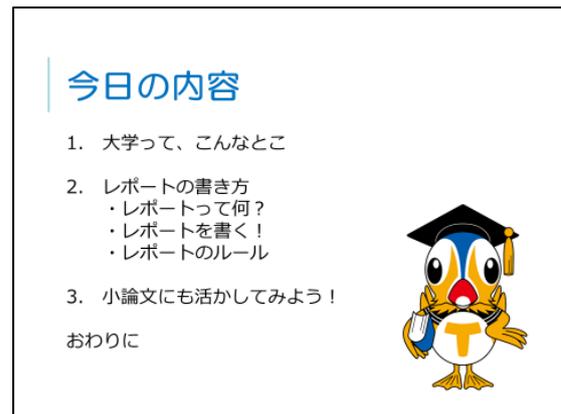
高校生へのライティング講習会(米子東、米子北斗)

平成 28 年度より高校からの依頼を受け、高校生を対象としたレポートの書き方講習会を行っています。今年度は、昨年度に引き続き米子東高校と、新たに米子北斗高校にて実施しました。

講習会の内容は、米子東高校では 3 年生を対象とし「読書レポートの書き方」について、米子北斗高校では 2・3 年生を対象とし「レポートの書き方と小論文への活かし方」について行いました。各校により内容は異なりますが、根本的な部分は大学にて実施している「レポートの書き方講習会」と同じです。これまで高校生の皆さんが取り組んできた感想文や小論文との違い、またレポートの特徴や作成方法、引用について確認しました。

各校とも、皆さん熱心に講習会に臨んでくださったことが印象的です。米子北斗高校において講習会中に取り組んだワーク（「主観的と客観的の違いを考える」、「テーマを設定し問いをたくさん出す」）では、はじめ戸惑いも見られました。しかし、いくつか例を出すと、すぐにコツを掴み、各々の力でワークに取り組んでいました。

講習会后、レポートの種類を理解することが難しいとの意見もありました。高校だけでなく大学を含め、この点について、どのように説明していくかが今後の課題です。今回の講習会は、高校生の皆さんが今後大学で取り組むことになる「レポート」について事前に知ってもらう機会になったと思います。高校の段階でレポートに触れたことが、今後、実際にレポートを書く際に「レポート」という言葉に気負わず、積極的に取り組めるような小さな助けになればと願います。



読書ラリー2017 表彰式

中央図書館は平成 29 年 12 月 18 日(月)に、医学図書館は 22 日(金)に、それぞれ、読書ラリー2017 のコメント賞表彰式を行いました。表彰された方などは下記のとおりです。

8 月 28 日から 11 月 30 日まで実施した読書ラリーでは、様々な分野の本についての 57 枚の手書きのコメントが寄せられ、図書館内に本と一緒に掲示されました。コメントを読んだ学生のみなさんが、本を手にする姿が多く見られました。

コメントを書いてくださった皆さん、コメントカードに「いいね！」シールを貼って応援してくださった皆さん、ご参加ありがとうございました。

○図書館長賞

村上 晃一さん(工学部1年)
サガン著 朝吹登水子訳
『悲しみよこんにちは』

○医学図書館長賞

毛戸奈菜葉さん(医学部4年)
レイザーラモンRG著
『人生はあるあるである』



鳥取大学附属図書館報 第131号 (2018年4月)

〔編集・発行〕鳥取大学附属図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6728 [FAX] (0857)28-6346

〔E-Mail〕tosyokan-p@adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ]<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C)鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

